

のら 動か 現場 運現

ピースおおさかの危機と市民運動

文箭 祥人

*加害展示を一掃するリニューアル

大阪府・大阪市が出資するピースおおさかが今年4月9日に、展示リニューアル構想を発表した。戦時下の日本軍による「加害」に関わる展示をなくす、というものだ。「満州事変から第二次世界大戦まで15年にわたるアジア・太平洋地域を中心とした戦争」の展示をなくすというものだ。「中国 大陸への侵略 1931年9月18日柳条湖事件、15年にわたる中国への侵略戦争の始まりである」の説明文で展示が始まり、その横には「日本軍の毒ガス使用を証明する報告書」や1937年日本で発行された戦勝アルバム「支那大事変写真史」が置かれ、



上海突入・日本海軍陸戦隊や重慶爆撃、上海爆撃、捕らえられた中国兵、南京大虐殺の写真（死体は焼き棄てられたり揚子江に投げ込まれたりして処分された）の説明文がある。平頂山事件、第731部隊、満州国と満蒙开拓団、シベリア抑留なども取り上げている。続いて「朝鮮の植民地化」のタイトルで、皇民化政策や強制連行・強制労働を写真や図解などで説明、さらに「アジアの国々・大東亜共栄圏への道」として「コウミンガッコウの日本語教育（フィリピン）」や「日本の愛国歌を歌いながら行進させられる児童たち（スマトラ島）」、「バタワン―死の行進―」「泰緬鉄道事件」の写真が並んでいる。歴史を学ぶと同時に、再びこういう過ちをしてはならない、侵略してはならないという思いを抱かせる場になっている。

ピースおおさかが公表したリニューアル構想は従来の展示の一新を表明した。リニューアルの必要性について、「22年前の開館当時から『加害と被害の両面を展示』と評価する声がある一方、『残虐』『偏向』『自虐的』といった批判もある」としている。展示の構成については「現在の展示室にこだわらず、ゼロベースから検討する。大きな流れとして「大

阪空襲」を中心に取扱い、焦土から復興し今につながる大阪が形成された過程を示す」として、「大阪空襲」「焦土からの復興・平和の創造」の2つに限定するというのだ。中国への侵略や朝鮮の植民地化、大東亜共栄圏への道など加害の展示は外されている。

*10市民団体が「連絡会」を結成

4月28日、戦後補償問題や平和運動などに取り組む市民団体「南京大虐殺60ヶ年大阪実行委員会」「日本軍『慰安婦』問題・関西ネットワーク」「子どもたちに渡すな！あぶない教科書 大阪の会」など10の団体が一堂に会し、「ピースおおさか」の危機を考える連絡会を立ち上げた。この会のメンバーは加害の展示をなくさないでほしいと次のように声を上げている。

「リニューアル構想の展示の概念図として二つの楕円が描かれている。その中には大阪空襲、犠牲者への哀悼、焦土からの復興、平和の創造と書かれている。この二つの楕円の外側にもう一つ大きな円が必要だ。それはアジアに対する日本の侵略です」

「大阪には1000人以上の中国人が港湾の荷役などで強制連行され、大阪空襲で被害を受けたり、強制労働で亡くなった。被害だけを伝えて加害事実を伝えることは歴史の歪曲。ありのままの歴史を伝えることこそピースおおさかの役割ではないか」

「漫画などを通じて子どもたちを戦争を支

えた少国民に作り上げ、戦へ誘っていったことを臨場感ある設計で伝えてほしい。総理大臣の歴史認識が問題になって現在のだからこそ加害の展示をしっかりとしてほしい」

「子どもたちが歴史を偏った形で学び、歪んだ自国中心主義に陥ってしまうとアジアの人々との友好関係は築けない。ピースおおさかの存在は非常に心強いものだ。被害と加害の展示をさらに充実してください」

連絡会は5月にピースおおさかを訪れ、リニューアル構想の説明会の開催を要請した。ピースおおさかは「説明会の予定はありません」と拒否。6月には12項目の質問状を提出したが、「現時点では回答を控えてさせていただきます」と返答した。

*市民が作ったピースおおさか

ピースおおさかの前身は大阪府平和祈念戦争資料室。1970年代、様々な市民団体が大阪府などに戦争・平和資料館創設を求め開設懇談会が設立され、市民団体代表により設置理念や展示内容などが話し合われ、1981年に資料室が創設。その後、市民団体は公立平和資料館の建設を求めて大阪府などに働きかけ、公立平和資料館建設を提案し、その結果、大阪府が「大阪平和ビジョン」を策定し、ピースおおさかの創設となった。府と市によって建設されたピースおおさかの理念に市民団体の考えが反映された。設立当時に作られ今も守られているピースおおさかの

設置理念には「1945年8月15日に至る15年戦争において、戦場となった中国をはじめアジア・太平洋地域の人々、また植民地下の朝鮮・台湾の人々にも多大な危害を与えたことを、私たちは忘れません」と書かれている。リニューアル構想にはこの設置理念を継承するとは書かれていない。市民の考えが反映してできたピースおおさかの設置理念がいま危機に瀕している。開館後、右翼団体が南京大虐殺に関する展示に対して『日本軍は他国を侵略した』などと表現しているのは不当である」と批判するなど、ピースおおさかの加害の展示に対する攻撃があったが、市民ネットワークが結成され対抗し、展示の一部は変更されたが、ほとんどの展示はそのまま残った。「ピースおおさかのリニューアルに府民・市民の声をーシンポジウム」開催は6月29日大阪市内で開催され、約30の市民団体、200人以上が集まった。大阪大空襲体験者、教育現場の先生、歴史学研究者、在日外国人らが発言した。宣言文では「声を上げ続けなければ平和を勝ち取ることはできないのです。皆でピースおおさかの展示に声をあげましょう。ピースおおさかを大阪の平和発信のセンターに育てていくことが世界の平和につながると考えます。皆さんで手を携えて子どもたちに『平和』という未来を届けましょう」と訴えた。また、集会宣言では「ひと言葉書運動」の提案があった。ピースおおさかの展示をどうしてほしいか、葉書に皆さんの平和への

の思いを書いてピースおおさかに送ってください、というものだ。1人でも多くの方に参加して頂きたい。

政治家の中には「ピースおおさかを西の遊就館に」という人もいるようだが、

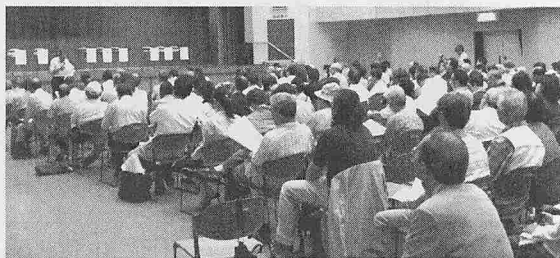
ピースおおさかの設立の経緯をみると、ピースおおさかは、亡くなられた方も含めて、これまで関わってきた多くの市民のものだ。分厚い市民の歴史を噛みしめ、そして、ピースおおさかの危機は「戦争をする国作り、戦争をする人作り」の流れの中で起こっていると認識しながら声を上げて行きたい。

(ぶんや・よしと／大阪空襲訴訟を支える会、「ピースおおさか」の危機を考える連絡会、写真提供も筆者)

*参考資料
ピースおおさか <http://www.peace-osaka.or.jp/>
リニューアル構想 <http://www.peace-osaka.or.jp/news/pdf/pdf20130406.pdf>

「平和博物館の展示改変に對抗する草の根の取り組み」立命館大学国際関係学部山根和代 <http://www.psa-j.org/html/resume2013spring/bukai-yamane.pdf>
「ひと言葉書運動」以下のHPから葉書をダウンロードし、表裏を貼り合わせて、投函してください。

<http://www.tb.biglobe.ne.jp/~hotline-osaka/pisu-hagaki.pdf>



「ピースおおさかのリニューアルに府民・市民の声を！シンポジウム」